

社会資本整備総合交付金

災害に強い都市空間の確保による安全・安心な都市づくり(除雪)

事後評価資料

令和元年 12月

仙台市



災害に強い都市空間の確保による安全・安心な都市づくり(除雪)

通行可能な道路ネットワークを確保したり、旅行速度を保つことで、安全で円滑な冬期交通の確保を図る

2018.1
北陸での立ち往生



大規模
な交通障害
発生させない



スリップによる交通障害

除雪状況 (市内延長 約1,700km)



凍結防止剤散布状況 (市内延長 約1,000km)



※引き続きR1以降は「冬期の交通機能確保による安全・安心な都市づくり」にて冬期の除雪を実施する。

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和02年03月27日

計画の名称	災害に強い都市空間の確保による安全・安心な都市づくり												
計画の期間	平成26年度～平成30年度(5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	仙台市												
計画の目標	舗装修繕等により、地震や大雨の被害を受けにくく、かつ被災した場合も救助等の活動に支障を来さない道路環境の形成を図るとともに、日常的にも快適かつ安全に利用できる都市空間の確保を図る。 (※「災害に強い都市空間の確保による安全・安心な都市づくり(防災・安全)」を準用する。)												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	483	A	483	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H26当初)	(H28末)	(H30末)
1	優先的な舗装修繕及び側溝改修(道路ストック点検より早めの補修が必要とされた箇所)の必要な箇所の整備改善率を、平成26年度当初の0%から平成30年度末の50%に向上させる。 舗装修繕及び側溝改修の総事業箇所数に対する当該事業の完了箇所数の割合を算出する。 整備改善率=(Σ(舗装修繕完了箇所数+側溝改修完了箇所数)/Σ(舗装修繕必要箇所数+側溝改修必要箇所数))×100	0%	25%	50%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H26	H27	H28	H29	H30				
		一体的に実施することにより期待される効果 備考																		
道路事業	A01-001	道路	一般	仙台市	直接	仙台市	国道	除雪	(国) 457号	除雪 L=41,500m	仙台市	■	■	■	■	■	54	—		
	A01-002	道路	一般	仙台市	直接	仙台市	都道府 県道	除雪	(主) 仙台泉線外14路線	除雪 L=115,000m	仙台市	■	■	■	■	■	165	—		
	A01-003	道路	一般	仙台市	直接	仙台市	市町村 道	除雪	(市) 桐ヶ崎年川線外149 路線	除雪 L=204,400m	仙台市	■	■	■	■	■	264	—		
											小計						483			
											合計						483			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

本市独自に実施

事後評価の実施時期

令和元年度

公表の方法

仙台市のホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

・「災害に強い都市空間の確保による安全・安心な都市づくり（防災・安全）」を準用しているため、定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現は特になし。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

・冬期の除雪は、通行可能な道路ネットワークの確保や旅行速度維持に寄与し、安全で円滑な冬期交通が確保できた。

○特記事項（今後の方針等）

・令和元年度からは、新たな社会資本整備計画「冬期の交通機能確保による安全・安心な都市づくり」により引き続き冬期の除雪を実施する。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	50%	事業実施期間の中間年度である平成28年度に仙台市舗装長寿命化修繕計画を策定し、同計画に基づき舗装を長持ちさせる設計（設計期間を10年から20年に変更）に見直したことから整備計画全体の事業進捗に遅れが生じたため。
	最終実績値	38%	